

## 漁家体験シリーズ ～食文化の伝承～ 第2回なれずし作り

### 1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
50	43	43	43 (福井5・富山4・滋賀14・京都4・奈良4・兵庫7・愛知5)

### 2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・若狭地方の伝統的スローフードを通して食文化についての理解を深めるとともに、地元ならではの食文化の大切さを発信する。
- ・漁家の生活体験及び交流を図る。
- ・他施設との連携を図るとともに地域等との合同事業を想定したプログラムの企画、運営のノウハウを発信する。

◆期日・期間

2011年11月 5日（土）～2011年11月 6日（日） 1泊2日

◆後援・協力団体

○後援：福井・岐阜・愛知・滋賀・京都各府県教育委員会 ○協力：田烏区漁家

◆参加者分析

- ・本年度の本事業参加者は、43名であった。第1回目のへしこ作りの参加者のうち4家族、合わせて13名が今回不参加となったが、新規に6家族、合わせて20名の参加があった。
- ・参加者の多くが大人の家族及びグループでの申し込みであり、家族で休日に体験活動しながら、ゆっくりと時間を過ごしたいという思いが伝わってきた。
- ・参加者の多くが「へしこ」・「なれずし」両教育事業に、これまでに数回参加しているリピーターが多いのも特徴である。

		13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
十一月五日（土）	受付	はじまりのつどい	食文化探訪 「なれずし」の話	移動	ふれあい地曳き網 (磯鍋作り) 荒天の場合は福井県 海浜自然センターの 施設見学	移動	なれずし作りの 下準備	夕食	漁家での語らい	自由	入浴	就寝
十一月六日（日）	起床・洗面	朝食	朝 おわりのつどい (米・ぬか漬)	なれずし作り	移動	おわりのつどい	①自然の家で海の活動 ②おばま食文化館見学	オプショナル	解散	希望者は、御食国若狭おばま食文化館を見学、「手まりずし作り」をする。自然の家ではボート活動をするなど選択活動として実施する。		

◆企画のポイント

◇プログラム

漁家体験シリーズとして、伝統的な日本古来の食文化を見直し、必要な知識や技能を習得し、それを自分の生活の中に取り入れてもらうことを目的とした。そのために、小浜地域に伝統的に食されている「へしこ」「なれずし」について学び、体験してもらうことで自分の食生活について見直す機会を提供したい。

また、より漁家の雰囲気に参加者に味わってもらうため、まず、船で移動して出漁時の感覚を味わいながら、その後、地曳き網体験とその漁獲での磯鍋作りを組み合わせ設定した。

◆広報のポイント

昨年度から、前年度末のファミリー事業参加者や近隣の公民館・社会教育施設にチラシを配布してきた。その結果、今回は新規の参加者（6家族20名）が増えた。

◆運営のポイント

本事業は、地元小浜市田烏区の観光組合・民宿漁家と協力しながら実施している。そのため、漁家民宿の代表者との連絡を密に取った。

事業が始まるとすぐに各漁家へ参加者が分宿することになるため、各漁家と参加者がうまくコミュニケーションがとれるように、職員・スタッフを適切に配置した。

◆安全管理のポイント

集合場所を田烏区にある集落センターにすることで、移動時間の短縮や道中の事故を防ぐことにもつながった。

屋外では、船での移動・地曳き網・磯鍋など危険を伴う活動があったため、事業担当職員・スタッフ以外に、職員・地元ボランティアスタッフを適切に配置し、船に乗る時はライフジャケットの着方の説明など具体的な指示を行うなどの安全確保に努めた。

◆事業実施の必要性

ファーストフードの普及により手軽で便利な食事が出来るようになったが、そこには、家庭の味や地産地消、手間暇かけて作るという大切な視点が見失われてきた。現代は「飽食」「孤食」の時代であると言われるように、「食に関する教育」の必要性が様々な分野で叫ばれている。そんな中、食の世界遺産にも指定された地域の伝統的な食文化である「鯖のへしこ」や「鯖のなれずし」作りのように、自分でスローフードを作り食する体験が現在の青少年には特に必要である。また、様々な人との出会いを通して、異文化に触れながら地域間交流、世代間交流を図ることでより豊かな人間関係を作ることができると思う。

◆事業の特色

この事業の特色は漁家での生活を体験しながら、若狭地方の伝統的な鯖のなれずし作りを通して、食文化についての理解を深めることにある。漁家の方に魚料理についての指導を受け、自分で手間暇かけて料理を作り食する体験をする。そして、自分たちと違う文化に触れると共に漁家や参加者の交流を図る。また、地元の漁師さんの話を聞き、地域の伝統的な食文化への一層の理解を深めるように工夫する。

### 3. アンケート結果

#### (1) アンケート

参加者（子ども）	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	75%	25%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	75%	25%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	75%	25%	0%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

参加者（大人）	4	3	2	1
事業全体を通してどうでしたか	79%	21%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	77%	23%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	76%	24%	0%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

#### (2) 参加者の声

##### (子ども)

- ・とても楽しかった。
- ・来年も参加したい。
- ・地曳き網でエイがいてすごかった。来年もまたやりたい。

##### (大人)

- ・何度も参加させていただいていますが、故郷に帰ってきたような気持ちになっています。へしこやなれずしのお土産もあり、青少年の職員、ボランティアさん、佐助の皆様などの協力で成り立つ事業です。感謝、感謝です。
- ・毎年企画していただきたい。今後も末永く続けてほしい。
- ・普段できない体験ができるので参加しました。とても面白い企画でした。
- ・海に関した色々な体験ができてよかった。
- ・今回お世話になった漁家さんの熱い思いが良く伝わりました。
- ・参加して大変よかった。森下さんの話も歴史を教えてもらい、勉強になった。
- ・この地方独特の食文化、食習慣を知ることができた。

### 4. 成果と課題

#### (1) 成果

- ・なれずしを作る過程から参加させてもらうことにより、手作りの良さを再認識したり、スローフードについての認識を深めたりすることができた。
- ・漁家の方に歴史的な背景やへしことの関係など資料を添えて解説してもらうことにより、食文化についての理解を深めることができた。
- ・船での移動、地曳き網体験、磯鍋作りをつなげてプログラムしたことにより、海の恩恵を体感するとともに、漁家生活の体験を深めることができた。
- ・参加者相互交流については、昨年の反省からより利用者に親近感を持ってもらうために、はじまりの式でスタッフの自己紹介を入れるなど内容を工夫した。
- ・田烏漁港から須の浦海岸へ船で移動したり、地曳き網を体験したりすることで、海の恩恵を体感してもらうことに大いに効果があった。

#### (2) 課題

- ・多くの教育事業が児童及び生徒など青少年対象の参加者が多い中、本教育事業は成人の参加者が多いため、大人向けの言葉がけを意識していくとともに、プログラム内容についても考慮していく必要がある。
- ・漁家で昔話や、漁具を含めて漁業についてのお話いただくなど、漁家泊の効果을上げるための仕組みが必要と考える。

5. 活動の様子



【開講式】



【なれずしの話】



【漁船による移動】



【地曳き網体験】



【米と麴を混ぜる】



【磯鍋づくり】



【さばの皮むき】



【米と麴を混ぜて詰める】



【手まり寿司作り】